

ジェンダーで読み解く戦争

日時 2014年11月28日（金）13：00～14：30

場所 千里山キャンパス 尚文館 1階 マルチメディアAV大教室

講師 源 淳子（委嘱研究員）

上記のタイトルは、本学で開講されている講義名であり、選択科目です。春学期と秋学期に開講されており、4人の担当者（今年度は3人）で構成されています。下記に今年度のシラバス（講義内容）を紹介いたします。ちなみに今年度春学期の受講生は約300名でした。

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| ①イントロダクション | ②ジェンダーの視点で戦争をとらえる |
| ③なぜ男が戦うのか | ④男たちの戦後 |
| ⑤戦争によって「解放」される女たち？ | ⑥近代天皇制を支える家族と軍隊 |
| ⑦「国体」と靖国神社 | ⑧大日本帝国と植民地主義 |
| ⑨公娼制度 | ⑩「慰安婦」制度 |
| ⑪協力者と抵抗者(トラウデル・ユング) | ⑫協力者と抵抗者(ゾフィー・ショル) |
| ⑬協力者と抵抗者(シンドラーとラーベ) | ⑭ドイツと日本の比較—「伝え方」について考える |

講義の目的は、次の通りです。戦争は「国家」が人殺しを要求します。その戦争をジェンダーの視点から理解することです。第2次世界大戦に注目しますが、それは、現在におけるさまざまな問題について考えることができるからです。わたしは⑥～⑩を担当しています。日本の戦争が終わって来年は70年になりますが、いまだ「解決」していない問題がたくさんあります。近年のことでは、橋下徹大阪市長の発言、「河野談話」検証などがこれらのテーマと関連します。

現在、安倍政権の特定秘密保護法制定、靖国神社参拝、集团的自衛権の行使容認の閣議決定などの動きは、1931年から始まる15年戦争の時代と似かよっているようにも思えます。こうした時代を学生たちがどのように捉えているのか、学生の反応を紹介したいと思います。

近代国家と軍隊、軍隊と家族の関係、戦前の「国家神道」を継続する靖国神社問題、軍隊性奴隷制である「慰安婦」制度とその問題、そしてヘイトスピーチが各地に波及しています。それに関連する植民地主義の問題も提起したいと思います。

戦争に女性がどのようにかかわったかを考えることは、戦争に男性がどのようにかかわったかを考えることでもあります。それはまた、戦争へのかかわり方を学ぶことでもあると思います。会場のみならずとも考える講座にしたいと思います。

* * *

●聴講無料 予約は不要です。多数のご来場を歓迎します。
手話通訳が必要な場合は、11月13日(木)までに人権問題研究室へご連絡ください。



主催 関西大学人権問題研究室

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35 阪急千里線「関大前」駅下車

Tel 06-6368-1182 Fax 06-6368-0081

ホームページ <http://www.kansai-u.ac.jp/hrs>